

オープンハウス2001

情報処理研究部門・知能システム研究部門が同時開催



「オープンハウス2001」は、10月18日情報処理研究部門・知能システム研究部門のそれぞれの研究現場を会場として開催された。独立行政法人のモットーの一つである「独立自主性」を実行した産総研第一号としての研究室公開となった。

当日は、両研究部門とも産学官連携を視野に、新体制設立以前より継続されている研究や、新たに編成された研究グループの最新成果などを、工夫をこらして公開、展示した。

情報処理研究部門 積極的に皆様のもとへ

情報処理研究部門は、主にネットワークや高度コンピューティング・ヒューマンインターフェイスなどに取り組む部門として、36テーマについて公開を行った。

【公開プログラムから】

「GRID」を紹介

産学官の国際的な協力で推進され、注目を集めている「GRID」技術がある。

分散高性能計算のためのミドルウェア「Ninf」開発や、ペタバイト(1,000兆文字相当)の膨大なデータに対する大規模並列処理基盤ソフトGrid Data Formの開発、アジア太平洋地域におけるグリッド研究の基礎となるApGridの構築など、その評価は高く、産総研の研究チームは世界でも重要な役割を果たしている。

知能システム研究部門 様々なロボットを実現する

知能システム研究部門は、情報科学・技術と人間・実世界の間位置して、知能化された情報システムや、機械システム、ロボット、メカトロニクスシステムなどの研究を推進する研究部門で、オープンハウスでは32テーマについて紹介した。

【公開プログラムから】

ヒューマノイド・ロボットプロジェクトを紹介

公開の中で注目を集めたヒューマノイドロボットは、人との共存をテーマにした、人間型ロボットの開発を目指す産学官の共同プロジェクトの中で開発されている。

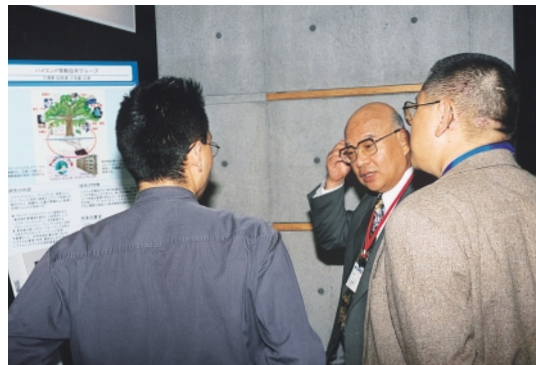
ロボットの動作アルゴリズムを検証するシミュレータ“Open - HRP”の開発が、様々なタイプのロボットの開発を可能にしている。

その他、モジュールを合体、変形させるロボットや、2本指のマイクロハンドなど幅広い技術が紹介された。

知能システム研究部門



情報処理研究部門



来場者の声

自由に意見交換できる雰囲気が良かった。
プレゼンテーションには積極性を感じた。
本音での説明が聞けた。
もっと技術をPRしても良いのではないか。
会場が分散していて移動に時間がかかった。
など、いろいろな声が聞かれた。
これらの意見を次回以降のオープンハウスに
生かしていきたい。

